

## つながりが育むニュージーランドの日本語教育

ニュージーランド教育省

吉岡 千里

「アオテアロア (Aotearoa)」という言葉を知っていますか？

マオリ語で「アオ」は「雲」、「テア」は「白い」、「ロア」は「長い」を意味し、「長く白い雲のたなびく地」、すなわちニュージーランド（以下、NZ）を指します。その名のとおり、NZ は空が広く、豊かな自然に恵まれた土地です。先住民マオリの文化を大切にしながら、多様な人々がともに暮らす、多文化社会でもあります。

私は現在、日本語専門家として NZ 教育省の事業を実施している Tui Tuia | Learning Circle（以下、TTLC）に派遣され、「ナショナル・ランゲージ・アドバイザー」として活動しています。今回は、その活動の中でも、つながりを育む取り組みとして印象的だった「日本語イマージョンプログラム」と「カンタベリー大学の NCEA 日本語ワークショップ」について紹介したいと思います。

### 広がるつながりと学び：日本語イマージョンプログラム

NZ では、日本語をはじめ、フランス語、スペイン語、中国語などの外国語を教える教師を対象に、「イマージョンプログラム」と呼ばれる教師研修が行われています。これは、対象言語が主に話されている国（たとえば日本語なら日本）を訪れ、現地の言語や文化に触れながら、授業づくりのヒントやアイデアを得たり、言語運用力と文化理解を深めることを目的としています。このプログラムは、NZ 教育省から TTLC への委託で実施されており、各言語のアドバイザーがプログラム全体の企画、運営を行います。なお、日本国内のプログラムは、国際交流基金関西国際センター（以下、JFKC）に委託し、実施しています。

日本語のイマージョンプログラム（訪日研修）は 2012 年に始まり、2024 年には記念すべき 10 回目を迎えました（参加者総数：延べ 57 名）。毎年、全国から選ばれた少数精鋭の教師たちが集うこのプログラムは、言語と文化に浸る機会であると同時に、孤立しがちな教師同士がつながる貴重な機会でもあります。参加者は新人からベテランまでおり、異なる視点や経験を共有しながら互いに学びを深めます。

日本でのプログラムは、JFKC での講義だけでなく、小学校・中学校への訪問、和菓子作り体験など盛りだくさんでした。大阪の街を探索するオリエンテーリングでは、日本語を実際に使ったり、授業づくりに役立つ素材を見つけたりする貴重な機会もありました。NZ に帰国早々「日本で学んだことを授業に取り入れた」という声もあり、日本での経験が現場の実践と確かにつながっていると感じました。



大阪オリエンテーリング

## つながる学びの場：カンタベリー大学 NCEA 日本語ワークショップ

NZ には、NCEA (National Certificate of Educational Achievement) という中等教育修了資格試験があるのですが、毎年カンタベリー大学主催で、その名を冠した「NCEA 日本語ワークショップ」という高校・大学連携イベントが開催されています。2024 年は 18 校 500 名以上が参加し、学校の垣根を超えた日本語の授業が展開されました。私もこのワークショップに授業担当講師のひとりとして参加しました。



日本語 NCEA ワークショップ

例年、このワークショップと同時開催で、「踊ってみた」ダンスプロジェクトも行われます。参加者は事前に課題のダンスを練習し、踊ってみた動画を提出。当日はその中から表彰が行われます。また、当日のプログラムには、参加者全員で踊るセッションもあり、会場は大いに盛り上がりました。数百人が踊る光景はまさに圧巻で、得も言われぬ一体感が生まれます。その様子はこの動画で御覧いただけます。

<https://www.youtube.com/watch?v=khV9TLfSn0s&list=UUO1puC1KGGtLJzs50wlzLeA&t=1s>

このイベントを通して、生徒、教師、日本語ユーザーの「よこ」のつながり、そして、高校と大学、新人教師とベテラン教師、在校生と卒業生といった「たて」のつながりが生まれ、育まれます、まさに高大&Beyond のグッドプラクティス（日本語に関わる多様な人たちを巻き込んだ優れた取組）と言えるでしょう。

## 実践現場とのつながり

日本語専門家は限られた任期のなかで、常に自分にできることが何かを問い続けながら活動する姿勢が求められます。私は、教室という実践現場から少し離れたところにいますが、だからこそ見える景色もあります。この立ち位置を活かし、現場の先生方が教えやすく、生徒が楽しく学べる環境づくりを、そっと支える「黒子」のように、時には「孫の手」のような存在でありたいと願っています。

マオリのことわざに「He aha te mea nui o te ao? He tāngata, he tāngata, he tāngata. (世の中で最も大切なものは何？ それは人、また人、そして人)」という言葉があります。言語や文化をつ

なぐのは、いつの時代も「人」です。AI の発展により外国語教育の価値が問われる今だからこそ、人がことばで他者とつながることの意味は、これまで以上に重要になっていると感じます。とはいえ、そうした言語教育の価値は、なかなか見えづらいこともあります。それでも、言語教育は人の心を動かし、世界をつなぐ根幹となるものです。そうした価値を信じつつ、先生方とのつながりを大切にしながら、これからも現場の声に耳を傾け、丁寧に関わっていきたいと考えています。そして、ささやかな活動の積み重ねが、NZ における日本語教育の発展に、少しでも貢献できることを願っています。

※原語「Māori」の発音に即した表記ではマーオリとなりますが、ここでは通用的な表記である「マオリ」を使用しています。

以上

## 【派遣先機関の情報】

### 派遣先機関名称

---

[トゥイトゥイア・ラーニングサークル](#)

Tui Tuia | Learning Circle (TTLC)

### 派遣先機関の位置付け及び業務内容

---

Tui Tuia | Learning Circle (以下、TTLC) は、オークランド大学傘下の UniServices (1988 年設立) の下部組織であり、教育省からの委託を受け、初等・中等教育段階の教師支援を行っている。国際交流基金からの派遣専門家は TTLC 言語部門で、National Language Adviser (NLA) として活動している。日本語の他、スペイン語、中国語、ドイツ語、フランス語の NLA がいる。NLA が対象とするのは、原則 7~10 年生 (11~14 歳) の教育段階の教師と学習者で、学校訪問、教材提供、ワークショップなどの実施を通して、外国語教育の推進、普及活動を行っている。

### 国際交流基金からの派遣者数

---

専門家：1 名

### 国際交流基金からの派遣開始年

---

1987 年